

① 策定の趣旨

まちづくり構想は、まちづくりを進めるにあたり、市民・事業者・行政など、関係者みんなが共有・共感できるものとして、一定期間変わることのない基本的なまちづくりの方向性として定めます。

② 構想の期間

令和5年（2023年）から令和14年（2032年）までの10年間とします。

③ ありたいまち

“ひと咲き まち咲き あまがさき”

尼崎市では、今を含めた将来、わたしたち（市民、事業者、行政）が、「あるべき」ではなく、「こうありたい」と望むまちの姿を「ありたいまち」と呼んでいます。

その「ありたいまち」の姿を、みんなで共有するために「ひと咲き まち咲き あまがさき」と名付けました。

私たちが目指す“ひと咲き まち咲き あまがさき”とは、

尼崎の“ひと”と“まち”が持つチカラがまち全体に広がり、

5つの“尼崎らしさ”があふれているようすを表したものです。

みんなでチカラをあわせて、「ひと咲き まち咲き あまがさき」の実現に向けて、一緒にあまがさきの未来を考えていきましょう。

あまがさきの未来はきっと、もっと、おもしろい。

④ 「ひと咲き まち咲き あまがさき」を構成する 尼崎らしい5つの「ありたい（ようす）」

『ほっとかない。だれも。なにも』

様々なひとを受け入れてきた尼崎。その懐の深さといい意味でのお節介なこのまちは、きっとありのままの自分でいられる場所になる。

『みなぎる。つながる。わたしたちのチカラ』

なりたい自分に向けたきっかけにあふれている尼崎。わたしたちが変わればまちが変わる。わたしたちのチカラは、きっとまちを動かす大きな力になる。

『きり拓く。ひと、しごと』

産業のまちとして発展してきた尼崎。このまちが持つ創り出すチカラ、そしてそれを活かすひとのチカラで、まちが、ひとが、もっと元気に。

『たかまる。便利でご機嫌な暮らし』

都市機能が充実し、便利で快適な生活ができる尼崎。このまちでの暮らしは、人生がもっと楽しくなる。

『ひろげる。一歩先の選択肢』

たくさんの課題に向き合ってきた尼崎。このまちが歩む持続可能なまちづくりは、きっと未来につながっている。

■ 5つの尼崎らしい「ありがたい」ようす

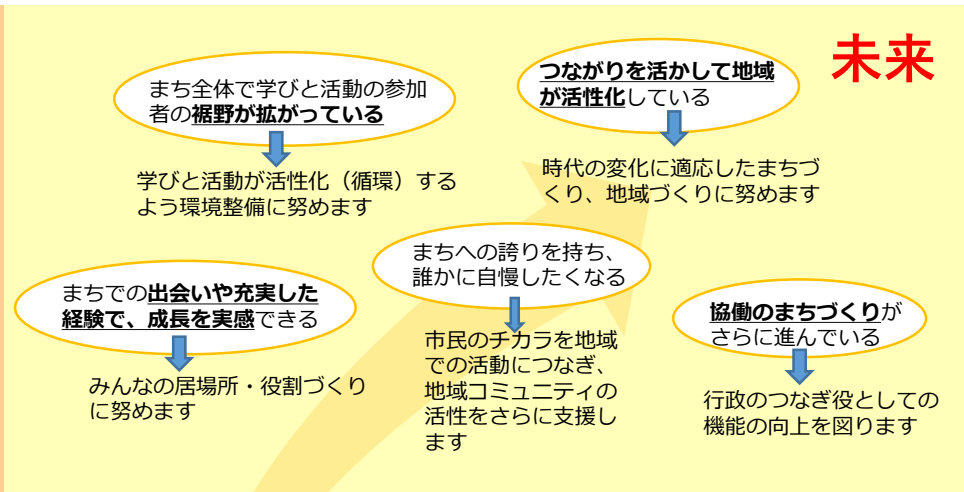
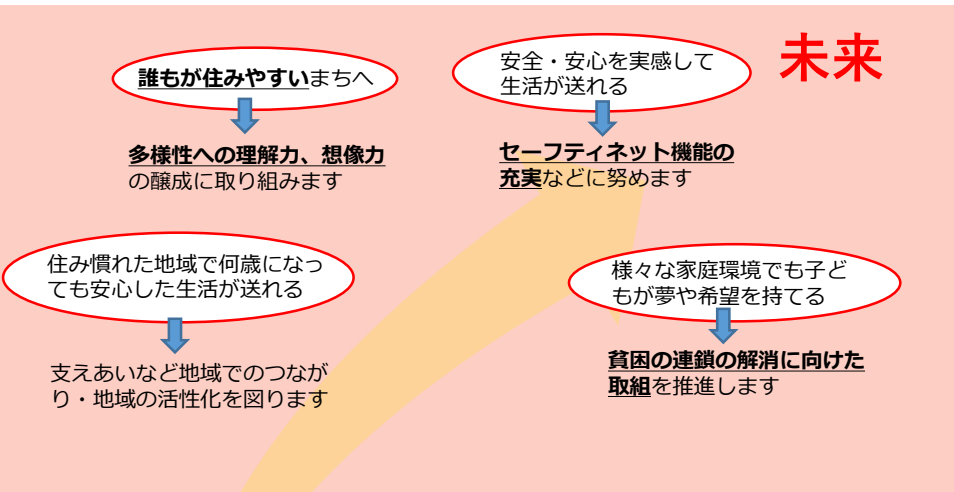
あまがさをより良くしていくためには、まちづくりに関わるみんながまちづくりのビジョンを共有し、チカラを合わせて進めていくことが重要です。本市が実施した「未来から今を考える」ワークショップでは、本市の置かれた現状や将来課題を踏まえつつ、それを乗り越えたあまがさの“ありがたいまち”の姿と一緒に考えました。この尼崎らしい5つの「ありがたい（ようす）」は、そのワークショップなどにおいて出された“ありがたいまち”の姿をもとにまとめたものです。

『ほっとかない。だれも。なにも』

様々なひとを受け入れてきた尼崎。その懐の深さといひ意味でのお節介なこのまちは、きっとありのままの自分でいられる場所になる。

『みなぎる。つながる。わたしたちのチカラ』

なりたい自分に向けたきっかけにあふれている尼崎。わたしたちが変わればまちが変わる。わたしたちのチカラは、きっとまちを動かす大きな力になる。



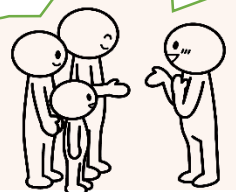
受け継がれてきたもの

人を受け入れることで根付いた尼崎の人情味ある市民性がある。

尼崎ならではの距離感の近さがある。

困っている人をほっとけないひととまちのあったかさがある。

色々な人が集まり、発展してきたことによる多様性がある。



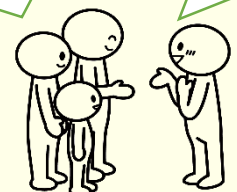
受け継がれてきたもの

市民・事業者・行政が協力し、公害問題に取り組んだ。

ピンチをチャンスに変える底力がある。

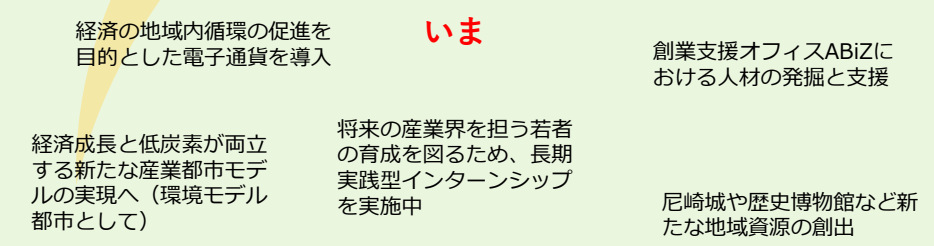
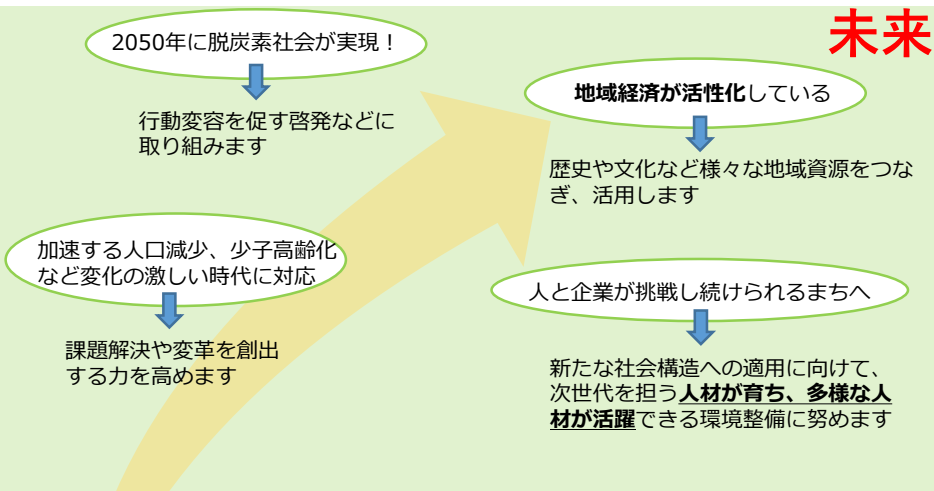
（【再掲】人を受け入れることで根付いた尼崎の人情味ある市民性がある。）

（【再掲】時代に合わせて柔軟に変化を遂げてきた。）



『きり拓く。ひと、しごと』

産業のまちとして発展してきた尼崎。このまちを彩る産業集積と高い技術力、そしてそれを活かすひとのチカラで、まちが、ひとが、もっと元気に。



受け継がれてきたもの

商人のまちとして栄えてきた稼ぐ力がある。

時代に合わせて柔軟に変化を遂げてきた。

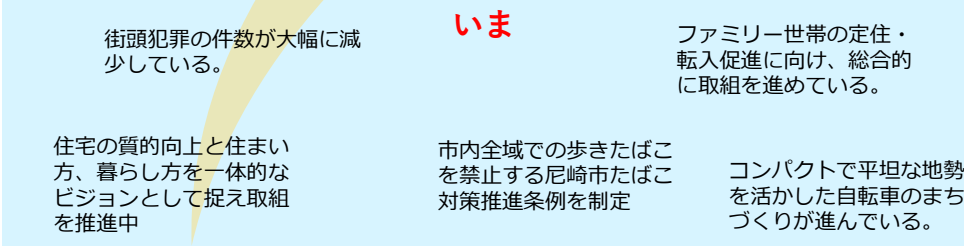
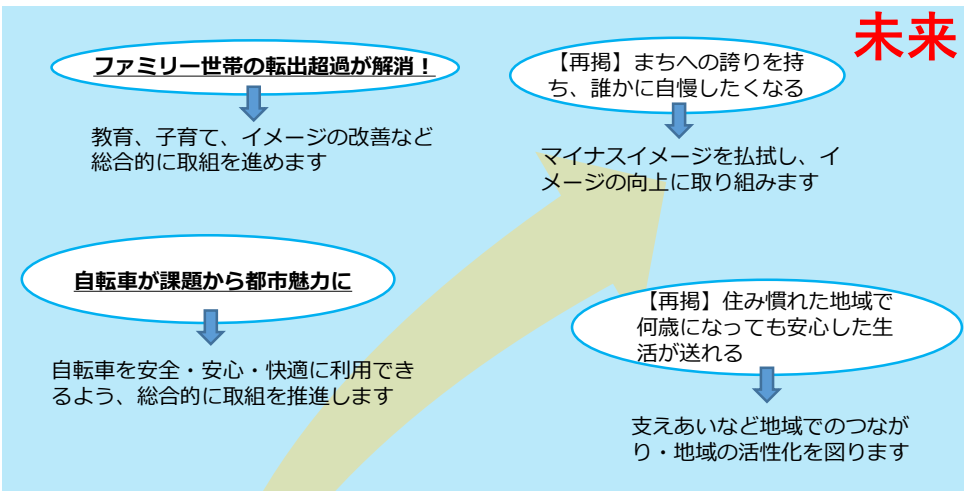
住工混在が生む地域と事業者が密接に関わってきた。

産業のまちとして発展してきた尼崎ならではの技術力を受け継いできた。

新旧混在の魅力がある。

『(さらに) たかまる。便利でご機嫌な暮らし』

都市機能が充実し、便利で快適な生活ができる尼崎。このまちでの暮らしは、人生がもっと楽しくなる。



受け継がれてきたもの

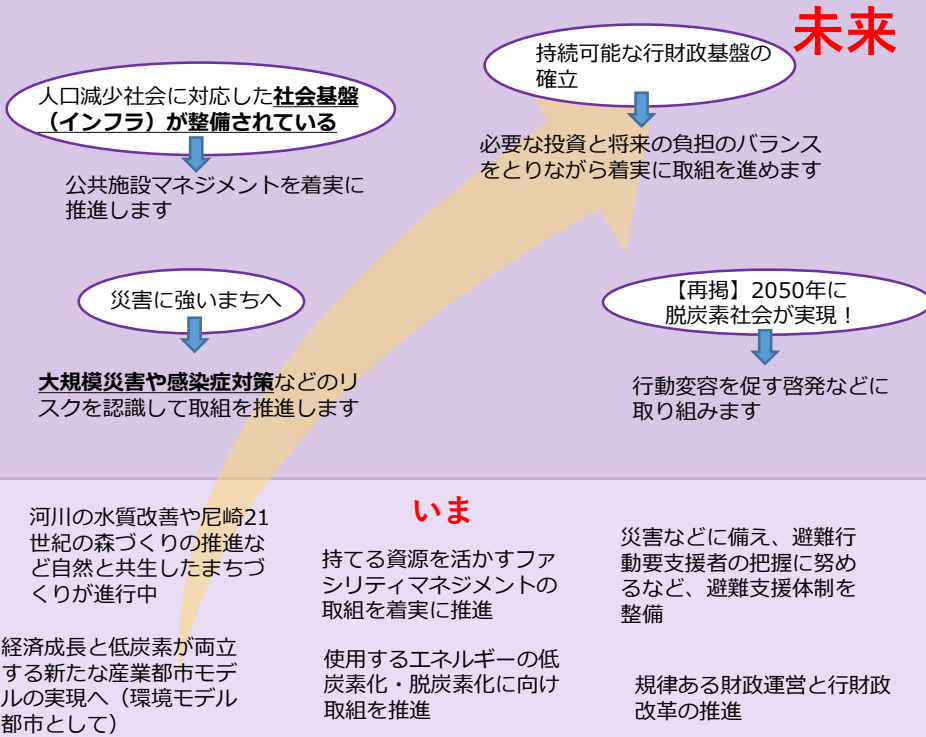
（【再掲】人を受け入れることで根付いた尼崎の人情味ある市民性がある。）

（【再掲】色んな人が集まり、発展してきたことによる多様性がある。）

高い交通利便性と、物価が安いことを含め、高い生活利便性により、充実した生活が営まれてきた。

『ひろげる。一歩先の選択肢』

たくさんの課題に向き合ってきた尼崎ならではのたくましさで、時代の変化に柔軟に素早く対応していく。このまちの未来はきっとどこまでも続いている。



未来

いま

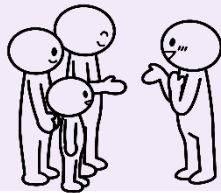
受け継がれてきたもの

（【再掲】市民・事業者・行政が協力し、公害問題に取り組んだ。）

（【再掲】時代に合わせて柔軟に変化を遂げてきた。）

水害で苦しんだ歴史がある。

行財政改革に取り組んでいる。



⑤ まちづくりを進めるうえで大切にしたいこと

尼崎市では、市民、事業者、行政が協力し、より良いまちを作っていくためにみんなが共有できるまちづくりのルールである「尼崎市自治のまちづくり条例」を制定しています。

私たちのまちをより良くしていくために、私たち一人ひとりが**対話を重ね、ともに学び、考え、それぞれの力を出し合う**、という自治のまちづくりの基本理念の実現を目指しましょう。

⑥ 行政の果たすべき役割

自治のまちづくりを推進するに当たり、行政はサービスの担い手としての責務はもちろんのこと、本市において、まちづくりの主体が力を発揮しやすく、協働の取組が広がるよう、様々な役割を果たす必要があります。

1. ともにまちづくりを進めるために

市民との対話や活用しやすい情報の積極的な開示など、開かれた市政運営を推進し、参画と協働を推進します。

2. 市民生活を支え続けるために

協働によるまちづくりだけでなく、必要な行政サービスを継続するためには、着実な公共施設マネジメントなど、それを支える持続可能な行財政基盤の確立を目指します。

3. 行政運営の実効力を高めていくために

行政の力を最大限に発揮できるよう、職員の資質向上と、柔軟な組織体制を確立するとともに、市民サービスの向上、事務の効率化等に向け、情報化を推進します。